

番外編・沖縄世界遺産巡り報告

【山行日】 2015年 1月 22(木)～25(日)
【集 合】 野木町島田宅 AM 4:00
【費 用】 交通費&宿泊代 : 69,500円
【メンバー】 CL:鈴木、大西、島田、
関、田村、藤原

1月22日(木) 曇り時々晴れ

羽田空港から那覇空港経由し沖縄・首里城へ
島田宅 4:00＝ツバサパーキング 5:30＝
羽田空港 5:45/6:55+++那覇空港 10:25/11:00＝
トラベルレンタカー11:40＝首里城公園 12:10/13:30～玉稜 13:40/14:10＝斎場御嶽 15:30/16:20＝
ヒルトン沖縄北谷リゾート 17:00



11月の屋久島山行の帰りに、沖縄に行きたいと言う話題で盛り上がり、「善は急げ」と今回の世界遺産巡りを計画した。冬場は、格安ツアーの案内が数多くあり、その中からホテルが豪華で、レンタカー付きフリープランのツアーを選び計画した。

今回のお気に入りには、開業したばかりのヒルトン沖縄北谷リゾートに3連泊出来ること。

夕食は付かないが、ヒルトンの朝食バイキング

は充実したメニューで超人気。

偏西風の影響で、那覇空港着が35分遅れた。

その影響か、レンタカーの送迎バスも並んでいて待たされ、レンタカーの手続きも30分くらい待たさ



れ、予定より1時間以上遅れた。時間を詰めるため、昼食はコンビニで弁当を購入し車の中で食べ、首里城公園へ急ぐ。平日の為、地下駐車場へすんなり入ることが出来た。首里城は、13世紀から14世紀南海の小島に独特の文化を开花

させた「琉球王国」の文化遺産。沖縄戦で壊滅したが、復元整備され国営公園に。さらに2000年には、5つのグスク(城郭)と4つの関連史跡を合せた9つの史跡が世界遺産に登録された。

パンフレットの道順に従い、守礼門から入ると左手に、世界遺産の一つ「園比屋武御嶽石門」がある。斜め右に坂を上ると歓会門、さらに瑞泉門、漏刻門と進み広福門をくぐると下之御庭に出る。





南殿・番所入口から入り、南殿・番所、奥書院を見てから正殿へ進む。黄金御殿から、いよいよ首里城のハイライト正殿2階へ。鮮やかな朱色に彩られた空間に思わず息をのむ。琉球カラーに包まれた、この上なくゴージャスな空間に圧倒される。北殿から出て、右抜門を通り久慶門を出ると守礼門へと戻る。守礼門からまっすぐ進み、



代の国王が眠る石造りの巨大墓室が立ち並び、王家の強大な権力が感じ取れる。首里城の駐車場に戻り、次の世界遺産「斎場御嶽」へ向かう。

「斎場御嶽」は琉球最高の聖地であり、祈りの場である。ガイドウォークを予約しており、ガイドさんの案内で沖縄の信仰を体感する。かつて斎場御嶽は男子禁制であり、例外的に入ることが出来た国王でさえも、女性の衣に変えて入ったそうである。琉球石灰岩の参道を登って行くと、あちこちに遥拝所があり、厳かな雰囲気を感じられる。15,000年前に岩盤が崩れてできたと言う三庫理は圧巻で、沖縄随一のパワースポットである。1時間ゆっくり見学し、斎場御嶽を後にしホテルに向かう。ホテルは2014年オープンのホテル

トン沖縄北谷リゾート。世界規模で展開する、ヒルトンブランドの超高級リゾートホテルである。部屋で1時間程くつろぎ、6時に夕食に出かける。ホテルから5分も歩くとアメリカンビレッジや飲食店に

下之御庭は石畳の広場で、正殿への入口奉神門の前に首里森御嶽がある。御嶽とは、神が築いた聖地とされ、王室の祈りの場。ここから先は有料区域となり、入場券を買い奉神門から御庭に入る。

御庭は正殿前の広場で、紅白の瓦が縞模様に敷き詰められた中庭で、様々な儀式が行われた場所。ここからはガイドウォークの予定だったが、時間が遅れた為自分たちで巡ることにする。



道路を横切り5分くらい歩くと3つ目の世界遺産「玉陵」に着く。

玉陵は、琉球王朝歴代の国王が眠る石造りの巨大な墓。入口にある資料館、奉円館を見学し玉陵について知識を得てから見ることにする。予備知識を得、参道を進み第一門をくぐり外庭へ入る。

さらに中門をくぐると中庭へ入ると、正面に歴



行け、とても便利な場所である。沖縄料理の店に入り、沖縄ソバやゴーヤチャンプルを戴くが、沖縄ソバは女性たちの口に合わなかったようだ。

1月23日(金) 美ら海水族館から今帰仁城跡&古宇利島へ海中ドライブ

ヒルトンリゾート 8:00=美ら海水族館 9:20/12:30=今帰仁城跡 13:00/14:30=古宇利島 15:00/15:30
ナゴパインアップルパーク 16:00/16:40=ヒルトンリゾート 17:30



朝食バイキングは、フルーツやデザートが充実していて美味しいと評判。今回のツアーの楽しみの一つでもある。6:30ジャストにレストランへ入り、朝食バトルがスタートした。各自好きなものを皿一杯に載せて戻ると、すぐに飲み物を沢山ゲットしニコニコ顔。野菜とフルーツもハンパでない。お腹いっぱい食べて、美ら海水族館に向かって出発した。途中コンビニで、入場券割引の看板を見

つけチケットを購入する。時間が早いので、駐車場も空いていてスムーズに止められた。入口から入ると、まずは浅瀬の生き物たちに触れるコーナー。水中に手を入れてヒトデやナマコに触れることが出来る。次は「サンゴの海」で、生きたサンゴが水槽の中で真近に見られる。

これだけの規模の生きたサンゴの展示は世界初だそうだ。続いて「熱帯魚の海」は沖縄の海をそのまま再現した水槽で、200種のカラフルな熱帯魚が踊るように泳いでいた。2Fに降りると、



サメやエビ、カニや珍しい魚の個水槽が連なり、個々の生体や動きが体感できる。そして圧巻が「黒潮の海」。7500㎡の海水をたたえる世界最大級の水槽を、最大の魚類「ジンベイザメ」やマンタやエイ、1万6000種の生き物が自然環境に近い状態で見ることが出来る。アクアariumでは、ジンベイザメやマンタを下か



ら見上げることが出来る。2Fの美ら海シアターで、沖縄の海に関する映像をじっくり鑑賞した。その後、「黒潮探検」に参加し、エレベーターで上がり、水上デッキから「黒潮の海」水槽を上から見ながら、飼育員のお姉さんに水槽解説をもらった。

水族館を出て、軽食コーナーで昼食を済ませ世



界遺産の「今帰仁城跡」へ向かう。



積の城壁が、地形に合わせ美しいカーブを描き素晴らしい。その長さは1.5Kmにおよび、首里城に匹敵するほどスケールが大きい城だ。

日本一早咲きのカンヒザクラの名所で、花が満開で超ラッキーだった。

歴史文化センターを見学し、次の古宇利大橋へ向かった。古宇利大橋は、沖縄本島屈指の青い海の上を一直線に延びる橋。両側にマリニブルーが広がり、2Kmの海上ドライブは感動のひと時。

橋を渡った駐車場に車を止め、砂浜まで歩いて行く。浜辺では大勢の高校生が、海に入り大はしゃぎ。



「どこの高校」と聞くと、なんと茨城県の岩瀬高校だった。海辺を散策し、クリアブルーの海を満喫し島を後にする。帰りは万座毛に寄る予定だったが、時間がオーバーしているので名護パイナップル園に寄って帰ることにした。

ホテルに戻り、少し休憩し夕食を食べに外に出かける。今日の夕食は、敏雄さんが調べておいた沖縄料理の人気店。昨日も予約の電話をしたが、

満席で予約できなかったため今日予約を取った。食べたいものを2皿ずつ沢山のメニューをオーダーし、みんなで分けて食べる。新鮮な刺身や焼き鳥、ゴーヤチャンプル、焼き魚等々をオーダーし食べたいものは追加でオーダーする。美味しいものを食べ、泡盛も進み舌好調、幸せな気持ちで店を後にする。ホテルに戻り、明日に備えて早めにベットにもぐりこむ。

1時からガイドウォークを予約しており、時間通りに着きガイドの方に案内してもらう。

築城は13世紀頃だそうで、琉球王国成立以前に北部一帯を支配していた北山王が3代に亘り居城とした。

1609年薩摩侵攻により、場内の建物は焼失し、さらに太平洋戦争で艦砲射撃を受け城壁も崩され、荒れ放題の城を復元し、世界遺産に認定されたそうだ。小高い岩山に、素朴な野面



積の城壁が、地形に合わせ美しいカーブを描き素晴らしい。その長さは1.5Kmにおよび、首里城に匹敵するほどスケールが大きい城だ。日本一早咲きのカンヒザクラの名所で、花が満開で超ラッキーだった。歴史文化センターを見学し、次の古宇利大橋へ向かった。古宇利大橋は、沖縄本島屈指の青い海の上を一直線に延びる橋。両側にマリニブルーが広がり、2Kmの海上ドライブは感動のひと時。橋を渡った駐車場に車を止め、砂浜まで歩いて行く。浜辺では大勢の高校生が、海に入り大はしゃぎ。「どこの高校」と聞くと、なんと茨城県の岩瀬高校だった。海辺を散策し、クリアブルーの海を満喫し島を後にする。帰りは万座毛に寄る予定だったが、時間がオーバーしているので名護パイナップル園に寄って帰ることにした。ホテルに戻り、少し休憩し夕食を食べに外に出かける。

今日の夕食は、敏雄さんが調べておいた沖縄料理の人気店。昨日も予約の電話をしたが、



1月24日(土) 中城城跡から勝連城跡を経て、海中道路を通り浜比嘉島へ

ヒルトンリゾート 8:00 = 中城城跡 8:20/9:50 = 勝連城跡 10:10/11:40 = 海の駅「あやはし館」
12:00/12:30 = 浜比嘉島 12:40 = 真栄田岬 13:30/13:50 = 座喜味城跡 14:10/15:00 = プラザハウスSC
15:20/16:00 = ヒルトンリゾート 16:30



状態が良い。先に築城された一の郭と二の郭は布積で、のちに築かれた三の郭、北の郭は相方積になり、石積技法の進化が見て取れる。

1853年にペリー一行がここを訪れ、精巧なアーチ門や城郭に驚嘆したと言われている。

一時は民間の動物園の一部になり、荒廃していたが町が買戻して修復し、世界遺産に登録されたそうだ。城郭の上へ上がると、東に太平洋、西に東シナ海が眺望でき素晴らしい。天気



良く、ガイドの丁寧な説明を聞きながら、気持ちよく歩くことが出来た。予定時間を30分オーバーし、急いで次の勝連城跡へ向かう。うるま市観光物産館でガイドさんと待ち合わせ、中にある展示品を見ながら
レクチャーを受けスタートする。城跡を発掘調査や復元に携わった男性もガイドに加わり丁寧な

解説を受けながら歩いた。勝連城は、琉球のグスクを語る上で欠かせない、阿麻和利が拠点にした城。標高100mの小高い丘に5段の城郭を構成している。東の郭に立つと、四の郭から一の郭まで、威風堂々とした全容をとらえることが出来る。ガイドの解説を受けながら、一の郭まで上がると360度のパノラマが開け

今朝も朝食バイキングをしっかりといただき、中城城跡へ向かって出発する。

8:30にガイドウォークを予約してあるが、少し早く着きガイドの方の案内で歩き始める。

中城城は、往時の石組みが残るグスク建築の最高峰と言われている城郭。14世紀頃に、按司によって築城され、その後15世紀半ばに築城の名手護佐丸が三の郭と北の郭を造営し完成した。

戦禍を免れ、現存するグスクの中で最も保存



よく歩くことが出来た。予定時間を30分オーバーし、急いで次の勝連城跡へ向かう。うるま市観光物産館でガイドさんと待ち合わせ、中にある展示品を見ながら

レクチャーを受けスタートする。城跡を発掘調査や復元に携わった男性もガイドに加わり丁寧な





東海岸一帯が見渡せる。一時代を築いた武将、阿麻和利の夢の跡に立ち、男のロマンを感じ取ることが出来た。観光物産館まで戻り、ガイドのお二人とお別れして海中道路へ向かう。海中道路は勝連半島と平安座島を結ぶ全長4.7Kmの海上道路。一直線に延びた道路を走ると、まるで海の上を駆け抜けているような気分を味わえる。中ほどに、海の駅「あやはし館」があり昼食を食べる。

なんと海鮮丼が500円。揚げたてのイカの天ぷらを2個付けて700円は超リーズナブル。

平安座島から、さらに浜比嘉島まで渡り、海中ドライブを満喫する。来た道に戻り真栄田岬に向かう。真栄田岬は東シナ海に向かって突き出た岬。切り立った断崖の上に展望台があり、眼下に色とりどりのサンゴが見えるほど透き通った美しい海が広がる。

今日は波があり、サンゴは見えなかったがスキューバダイビングを楽しむ方たちが見えた。岬を回り込むように走り、今日3つ目の世界遺産「座喜味城跡」へ向かう。座喜味城は、築城の名手護佐丸が築城した美しい城。規模は小さいが、強度を保つためカーブを多用し、まるで屏風のように城壁が伸びている。太平洋戦争の戦禍にあい、破壊された城壁はほぼ修復され美しい姿に復元されている。麓にある歴史民俗資料館に寄り、座喜味城の歴史を学習して帰路につく。途中、プラザハウスショッピングセンターに寄るが、お土産品はほとんどなくホテルに戻る。ホテルに戻り、夕食に出かける前にホテルの中庭や屋外プールを散策する。



そのまま外出し、近くのイオンでお土産を買いレストランで夕食を食べる。ホテルに戻り、ホテルサービスのケーキとコーヒーで打ち上げ会をする。我輩はたこ焼きを買って、泡盛をいただきながら最後の夜を楽しんだ。

1月25日(日) 識名園から那覇空港でショッピングし羽田空港へ

ヒルトンリゾート 8:30=識名園 9:00/9:30=トラベルレンタカー 10:00/10:10=那覇空港 10:30/12:45
+++羽田空港 15:20=ツバサパーキング 15:40=がってん寿司 18:00/18:40=島田宅 18:50

最後の朝食バイキングに気合を入れて臨む。3日目ともなると、何処に何があるかが解り、それぞれ好きなものを目指し出陣する。皿一杯に好物をゲットし、さらにフルーツや野菜を取りに行く。このパンが美味しいと聞くと、すぐに取りに走る。今日は出発が30分遅いのでしっかり戴ける。



の前を通り育徳泉に出る。育徳泉は清冽な水をたたえた井戸で、琉球石灰岩で精巧に積まれた曲線が美しい。育徳泉の先で池に出て、池に沿って歩き六角堂まで行くことが出来る。六角堂は池に浮かぶ島に作られた六角形の東屋で、中国風の趣が感じられる建物。島へは琉球石灰石で作られたアーチ橋を渡って行く。六角堂からは、池の対岸に御殿を正面から見る事が出来るが、防護壁に覆われ半分しか見えない。

六角堂からは来た道に戻り、途中から坂道を登り勸耕台へ出る。勸耕台から坂道を下り、真っすぐ進み階段を上がって右に曲がり、番屋の横を抜けると出口に着く。



れ、マリブルーの海上をドライブし、グルメも存分に満喫でき、感動の世界遺産巡りが出来た。

荷物を車に積み、九番目の世界遺産「識名園」に向かって出発する。識名園は、琉球王国最大の別邸で、国王一家の保養や外国使臣の接待に使われた建物。

御殿は修復作業中で、防護壁に覆われて半分しか見えず、中に入ることが出来なかった。

入口から入り、順路に従って進むと通用門、正門



レンタカーを早めに返し、10:30に那覇空港へ着く。荷物を預け、お土産を買ってからレストランで昼食を食べる。帰りの飛行機は追い風を受けて、来るときよりかなり早い。パークのバスもすぐに迎えに来てくれ、スムーズに愛車に乗ることが出来た。首都高も順調に走り、古河に18:00に着き夕食を食べて解散となった。

4日間天気に恵まれ、沖縄の歴史と文化に触